

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



「ほめる材料」づくり

ことばの教室やまなびの教室に通っているお子さんの学校での様子を知り、本人に必要な支援を考えるために、在籍校を訪問することがあります。在籍学級での子ども達の様子を見ることで、一喜一憂している私達(通級指導教室担当者)でもあります。自閉スペクトラム症、AD/HD 傾向の特性をもつ A さんの参観で考えたことを紹介します。

授業のはじめのあいさつを済ませ、着席しました。A さん以外は、机の上に教科書とノートが出ています。子ども達が着席した直後の担任の第一声が、「A さん、教科書を出してないよ。」でした。

たぶん、A さんは、毎日、毎時間、「教科書を出してないよ。」と言われているのではないのでしょうか。

同じことを繰り返し指摘されても自分の行動を変えられないのは、指摘することより・・・「教科書を出してないよ。」という言葉の繰り返し聞くことより・・・A さんにとっての適切な支援の方法がほかにあるということだと思います。

また、学級の友達に「A さんはいつも注意されている。」「A さんはいつも同じことを言われている。」とレッテルを貼られてしまうことは避けたいとも思いました。



そこで、私は、「ほめる材料」づくりを考えました。

例えば、授業のはじめに机の上に教科書とノートを出していないことで毎時間注意を受けてしまう A さんに対して・・・

- ① 前時終了のあいさつの前に、次時の支度をしてから休み時間にすることを学級の約束とする。
- ② 前時終了のあいさつの後に、次時の支度をしてから休み時間にすることを学級の約束とする。
- ③ 授業開始のあいさつの前に、「教科書とノートは出ていますか。」と全員に確認する。
- ④ 本児の机の上に「次の授業の支度をする」と約束を示し、A さんが確認できるようにする。
- ⑤ 学級の約束として机上の物の配置の仕方を決め、視覚的に本児が確認できるようにする。

これらのような手(複数の合わせ技もあり)を打つことで、A さんがみんなの前で注意を受けることは減るのではないのでしょうか。誰かへの注意から授業が始まるのが減るのではないのでしょうか。そして、A さんの行動の修正もできるのではないのでしょうか。

注意のことばは、どちらかというと「マイナスことば」の仲間に入ります。

それよりも、「全員、教科書とノートが出ているね。」「みんな、支度ができているね。」という「プラスことば」であるほめことばで、授業をスタートしたいなと思いました。



通級指導教室に通っているお子さんの中には、抱えきれないほどの「注意される材料」をもって生きている子ども達があります。そのために、自己肯定感がひくくなりがちでもあります。でも、周りのおとな・・・支援者・・・のかかわり方によっては、「ほめる材料」を作り出すことができるとともに、自己肯定感を高めることもできるのではないのでしょうか。